

名も無き詩の鑑賞会
SPIN OFF 企画

“これは 触れる 詩です。”
presented by The Poetry With Noname * 番外編



存在を体感する。。。
詩に触れる★work shop

硝子工房 窯硝
硝子教室

硝子工房窯硝(ガラスコボウカマシヨウ)さんは、秋田市にあるキルノワークのガラス工房です。
キルノワークは、常温の硬いガラスを耐火型に入れ、電気窯で溶着したり曲げたり 鑄込んだりする技法なんぞです。
ガラスというと溶けたガラスを金属のワイヤの先に巻き付け、ブローで空気を入れる 雷吹きイメージが強いけれど、それだけではないんですよ！と、作家の鎌田さんが、その魅力についておしえてくれます♪
こちらの窯硝さんでは、オリジナルの作品をつくる事が出来ます！

作家の鎌田さんのご好意により「名も無き詩の鑑賞会★番外編」を緊急企画！
みんなで“触れる詩”を感じてみませんか？
造形体験後は・・・ガラスたちと・・・一行詩でコラボしちゃいま～す♪

◇ 2010/08/07 (Sat)
夏休み特別企画！ 番外編「詩に触れるワークショップ」を開催。硝子工房窯硝さんにお邪魔しての体験版。作家さんのご好意のおかげで、突然のヒラメキから大慌てで実現にこぎつけることが出来ちゃった♪ 急遽集った



どんな風になるのかな？
出来上がりを想像。。。
ホッと緊張の糸をゆるめ、今度はコトバに触れる☆ カマシヨウさんも交じって、五人でタイトルリングと一行詩にチャレンジ！

タイトルリングには、それぞれが目の前の詩をどんな風に捉えたか表れているよう。「あなたの指先の硝子が何か囁いています」ってことで考えた一行詩は、偶然の順番のままです。五行詩にしちゃった！ 不思議に成立して、もう一度タイトルリング。詩の楽しみ方は無限だ！

あなたの指先の硝子が何か囁いています

・はずかしい
・声。ひと粒の泡に閉じ込められた声。
・この身を焦がした時の気持ちを忘れたんでしよう？
・やさしくしてください
・やわらかそう？ やわらかいときもあるけど、やわらかくないかなんか、ただどやわらかければ？

タイトル「殻」

【 New Poetry House 日誌 】
名も無き詩の鑑賞会
～The Poetry With Noname～
By かな



様々な色の無造作に割られた硝子片
大きさや形、同じものはひとつもない



に・・・を選んで
声まじりに置くように
の澄つ上をの葉を描く
硝子との葉を描く
硝耳ひ紙言模

これが想像以上に疲れて！ 冷たいお茶でひと休み。みんなで見せ合いっこしながら、窯の中で熱が加わったら

四名は、濃密な一日を満喫！
作家・カマシヨウこと鎌田硝子さんは心のある柔らかさを感じさせる人。私たち一行も好奇心と優しさを持って受け入れてくれました☆
まず、工房に併設されているお店で素敵な作品たちを鑑賞。たっぷり刺激を味わって、いよいよ「お皿」の造形体験。心に決めた設計図のとおり：あるいは感じるままに。黙々と作業。集中、集中。。。



出来上がりは思うまま？
熱せられ角が丸くなりました

硝子工房 窯硝

秋田市寺内油田2丁目1-53
tel.fax 018-838-0707
e-mail info@kamasyou.com

～造形体験は予約が必要です～

◇ 2010/10/15 (Fri)
「ほくらの理由」通信のEMの秋号に、九月開催の名も無き詩の鑑賞会の様子が掲載された。本家に逆取材されちゃった格好？ お墨付きを頂いて、これからも秋田らしくやっていこう！ 前号でレポートしたとおり、ほくらの理由一行が遊びに来てくれた刺激的な一日だったけど、一方通行じゃなく、お互いにイイ一日だったんだなんて、大きな記事を読んで思う。今度はどんな交流が、出来るかな♪

◇ 2010/11/14 (Sun)
会員の田口さんが講師を務める高校文芸のご縁で、高校生が遊びに来てくれた。ちょっと緊張してたかな？

詩の分科会で、ねじめ正一さんが講師としてお話ししてくれたそう！ うらやましい！ その時ねじめさんに紹介されたっていう詩を持ち込んでくれたので、作者名は伏せたままで朗読をお願いした。(ペーシ下の作品)

高校生の朗読で味わうことが出来たこの詩。漂い、伝わってくる感覚について語り合う。自分と重ね合わせ…、通り過ぎた時期なただけと今だからこそ思うこと…。大きな刺激にたくさんの感想が。

持ち寄られた詩は、おもに朗読という形で披露されるけど、テキストの持つチカラ×生身の声のチカラ、ということに話は発展！ 誰かの詩を、別の誰かが朗読すると、新しい解釈が加わったりすることで、違った表情が見えて来る。ひとりで感じるだけじゃなく、みんなで感じるのって、それがいい♪

この日は、童謡としてメロディをつけてもらった、という詩も紹介された。まだすっかり納得とはいかないんです、という書きかけの詩も。どれもが素敵。



九人で鑑賞した詩のタイトルは・・・

・朝

- ・ 静かな夜
- ・ あっつい あちち
- ・ 若い朝の中で
- ・ あけび夢
- ・ ほんとうそ
- ・ トンチンカン夫婦
- ・ 或いは、ヒザまでつかっていたときに
- ・ 秋のときめき

◇ 2011/01/09 (Sun)



ギターの弾き語り
朗読ともまた違う魅力を味わい聞き入る

豪華な一日！ イ
ダツカマコトさんが
訪ねて来てくれた☆
イダツカさんは、詩
作・朗読の他、朗読
会や創作のワークシ
ヨップを主催される
など多岐にわたって
活躍されている。こ
れまでに二度、北の
詩手紙に書評をお寄
せ下さっていて、久
しぶりの再会となっ
た方も♪

朝

マッハで漕いできた自転車の
息切れが今頃まで
四階までの長い階段を登りおえると
肺のあたりに
重さや軽い痛みを覚えた
まだ冷たい朝の空気が残る
教室へ入ると
誰も来ていない
「一番乗り」
誰もいないのに
妙に緊張して
息を整えてから
席についた
深い深い溜息
二日間私を待っていた
冷たい机に頬をつける
均一に並んだ
同じつくりの机たち
ちようど三十九個
ああ あともうすこしたら
この似たような同じ机に
全然違う三十九人が座る
朝練をするテニス部の音
剣道部の声
黒板には
まだ金曜日の日付けと日直
月は4月で
私はまだこのクラスに慣れない
時間はじれたいくらいゆっくり進む

このまま誰も来なけれ
ばいい
このまま一人でいたい
のだ
私は目をつむる
この青く淋しい朝
わたしはひっそりと息
をする

いっそ無機物になつてしまいたい。
ここに並んだ机、壁、黒板みたいに。
喋らなくて
笑わなくて
何も感じなくて
人が入ってきて 私と彼女はお互いに少し
びっくりする
ああ
私はやっぱり無機物なんかじゃない
どうしよう、どうしようど心の中で思った
感情は揺れて
内心とてもピクピクしているけど

「おはよう」
私は小さくあいさつをする

●●●●●
2003 詩のコンクール大賞作品

久しぶりに歌も持ち込まれた。歌は詞も詩メロディーも詩？ 弾き語りという形で持ち寄ることで、その作品本来の姿そのままに伝えてくれるんだ、なんて思ったり。

イタツカさんが居て、いつも通りじゃ勿体ない！ ということで、後半に急遽ワークショップをお願いした。

イタツカさんのワークショップ
「新しい言葉をつくってしまおう」から・・・

「つなわたり・羊かん」

【意味】のほほんとしてる人が実は心の中でテンパッてるようす

【由来】羊羹はのほほんとした人のイメージ。その人が内心つなわたりのような緊張をしちゃってることから

【例1】あの人は「つなわたり羊かん」だから、あんまり焦らせないで

【例2】人前に出ると手に汗にぎっちゃうよ、やっぱオレって「つなわたり羊かん」だよな

「イチゴ大福・スカイダイビング」

イチゴ大福スカイダイビングを行う皆様へ。

毎日三千個のイチゴジャムを求肥の中に塗り込んで頂く必要があります。この作業をへるにより、ほどよい甘さと粘りを獲得した求肥は体重350Kgの男性までを支えることができ、中に入っているイチゴの種のシャワーを浴びながら高度1万メートルからカラスに狙われないよう飛び降りて下さい。

任意の主題に沿って誰かが思い付くままに書いた二つの言葉を、別の誰かが自由に組み合わせる「新しい言葉をつくってしまおう」。

普段じゃとても考えつかないようなコトバとコトバの出会い、ちょっと可笑しくて、ちょっと不思議な言葉がどんどん生まれてくる☆ イメージ + イメージで、化学反応？ コトバってこんなに自由なんだ！

十人で鑑賞した詩のタイトルは・・・

- ・ 嫁ご
- ・ 不思議の魔法
- ・ come rain or come shine
- ・ おまえの家
- ・ このころ
- ・ なにかを見るとき

名も無き詩の鑑賞会 ~ The Poetry With Noname ~

.....
奇数月の第二日曜日、定期開催

ひとりひとりの

詩への想いを大切にします。

